

透析医のひとりごと

「日本の医療について」

澤田重樹

国家予算の歳出における社会保障費の中で、約 10 兆円が医療関係費である。

国民医療費は平成 12 年度は 30.4 兆円で、本人・事業主の保険料と本人負担のほか、国庫、地方による約 3 割の補助金が内訳である。そのうち医療費の国庫負担割合は 5% 下落しており、家計負担、医療機関の負担が 5% 増加しているのが現状である。

厚生労働省は、平成 12 年度の国民医療費を 38 兆円と予測したが、実際は 30.4 兆円であった（図 1）。それにも懲りず、平成 22 年度の予測を 68 兆円になるとマスコミ宣伝している。さらに間違った予測は訂正されず、今後の医療費膨大による医療費亡国論のイメージを創りあげ「老人医療に 5 倍の医療費がかかる」「老人が無駄な医療費を使っている」と高齢化を問題視させ、年金や医療費を減額させる情報操作を行っている。さらに日本の国民医療費は、高齢化により毎年 1 兆円を超えるペースで自然増を予測しているにもかかわらず、平成 12 年度は介護保険導入により 1.9% 減少、平成 14 年度は 2.7% の診療報酬の下落により 0.7% の減少し、予測と実際の間大きな矛盾があり、現在は、「医療費を減額すれば医療の質すらも維持できない」状況にある。もし良い医療を望むなら医療費の抑制ばかり考えては問題がある。

社会保障給付費の国際比較（対国民所得）でも日本は異常に低い。さらにこの 10 年間で日本だけが社会保障費を減額している。しかも政府は健康への自己責任、自分の健康は自分で守れと言って国民の医療機関への受診抑制をしているようなものである。

日本の社会保障還元率は世界の中でもダントツに低い（図 2）。小泉内閣は、潜在的国民負担＝（税金＋社

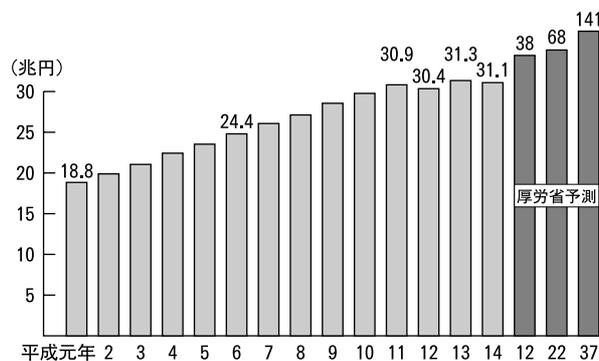


図 1 国民医療費の推移

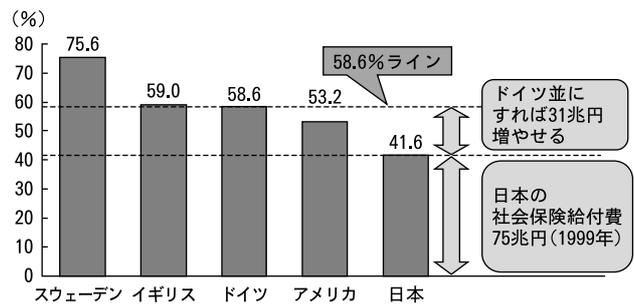


図2 社会保険還元率

$$\text{還元率} = \frac{\text{社会保険給付}}{\text{税金} + \text{社会保険料}}$$

(社会保険統計年表(1993)より全国保険医団体連合会が作成)

会保障費+財政赤字)/国民所得，を50%程度に抑えると躍起になっているが，自己負担が多いにもかかわらず自己負担分が分子に含まれていない問題がある。

世界各国は安い医療費で賄える高度医療の日本の制度を高く評価している。心ある医師，看護師たちの献身的な努力によって辛うじて支えられてきた日本の優れた医療機関の多くが，今経営的にきわめて困難な状況におかれており，日本の医療の全般的崩壊は必至なものとなりつつある。かつて来日したヒラリー夫人が「日本の医師や看護師は聖職者さながら自己犠牲をしいられ，忍耐強く活動している」といった言葉が有名である。日本の病院見学ではあまりに患者が多くて建物の老朽化が激しく参考にならない。日本では，医師や看護師などの医療従事者の犠牲によって過酷な労働条件であっても患者を思う気持ちが世界1位の医療を築いていることを忘れてはならない。

日本の国民医療費30兆円は建設投資額(公共事業費)85兆円，パチンコ産業30兆円に比べて高いと言えるだろうか。欧米では建設投資額は国民医療費の1/2である。盲腸手術入院の総費用はニューヨーク243万円，日本は30万円である。

部屋代においてもニューヨーク個室約15万円，一般病棟7万円であり，日本の一般病棟は無料である。海外で病気になったらファーストクラスに乗ってでも帰国して治療を受けたほうが安く済むのである。米国では，入院医療費が高すぎるので1日でも早く退院して隣のホテルに滞在し病院に通院したほうが安く済むのである。

日本の物価は世界一高いが，日本で医療を受けた場合，世界で最も安い医療費になる。安い医療費のため設備投資ができず，さらにマンパワーの不足など，これだけの金額で運営しているのだからそれぞれ不満を持つ人が多いのはあたりまえである。

日本の診療報酬は質よりも量での設定のため医薬品、医療機器の代金が高く、医師の技術料は異常に安い。また日米病院職員数の比較でも5~10倍の相違がある。価値あるものには適正な値段、責任あるものには責任に見合った価値の設定が必要である。医療事故防止の観点からも十分な診察や病気の説明と同意、適正な医師や看護師を確保できるように医療費を設定すべきである。

さらに公的病院の経営収支は問題がある。多額の税金が投入されているにもかかわらず民間の看護師の給料と比較して1.3倍、また民間病院1人あたりの人件費が460万円に比べ、社会保険病院は1人あたりの人件費が790万円と高額、まして多数が赤字病院である。

今後、病床数が十分である地域では国や自治体の病院は不採算部門（小児科・精神科・救急等）に特化して存続させ、ほかは民間に任せるのも一つの考え方であろう。

レセプト点数別医療費割合をみても、診療所の診療報酬を減らしても日本の医療費を下げる効果は小さい。なぜなら高度医療に伴う高額医療のほうが問題で、患者構成1%の患者さんのために26%の総医療費が使われているが、高額上位の患者さんの9割が死亡、助かっても社会復帰はほとんどないのが現状である。

最近の医療の問題点としては、院外処方制度がある。院外処方は増加の一途をたどっているが、同じ薬を同じ日数処方した場合院内では690円で済むが、院外処方では3,350円あるいは3剤以上処方の時は4,150円と医療費が跳ね上がる。院外処方薬代がアップする。院内の処方料よりも院外処方箋料のほうが診療報酬が高いのである。

まして、医師の再診料よりも院外薬局の技術料のほうが高く設定されている。院外処方制度により国民医療費が約1兆円増加している。患者さんのニーズは院内処方を希望（医薬分業についての意識調査によると85%）している。また薬剤師は薬の説明はできるが病名、臨床経験に乏しいため、症状と合わせてどのように説明できるのか問題が多い。

病院（200床以上）と診療所における初診時、再診時の診療報酬の相違のため、病院の外来機能だけを代行する門前クリニック、いわゆる門前診療所は、患者さんの手間や自己負担が増えるだけでなく、地域の診療所との関係に問題が生じ、真の病診連携の阻害になる。

さらに混合診療が導入されると、保険外診療（自費診療）が増え自己負担が大幅に増えることにより、金持ちが優遇され公平・平等に受診ができなくなり「いのちの不平等」を生み出すことになる。また、患者さんは私的保険を通じた保障を求めるようになり、米国のように私的保険が医療の内容を決める危険性がある。お金を払って「良い医療を受けたい」という願いは「自分だけが満足したい」発想でなく、「同じ思いを持つほかの人にも同様に良い医療が提供されるべき」で、今後「患者選択同意医療」の範囲を注視する必要がある。医療機関を不合理な経済競争に巻き込むことは医療人の行動原理たる「医の倫理」を侵食する。

病院経営への株式会社参入問題でも営利追求の場とすることで歪められ「組織ぐるみの診療報酬不正請求」

犯罪が多発する。米国の場合、経営のプロたちが運営する営利病院のほうが医療の質が劣るだけでなく価格も高い現実がある。介護保険における「民間開放」の結果が証明している。

「カルテ開示、インフォームドコンセント、電子カルテ、セカンドオピニオン」の議論は大切だが、その際には経費の議論が重大で、良い医療サービス、質の高い医療にはお金がかかるものである。膨大な事務手続きを医療機関に義務づけてさらに診療報酬を下げ、職員数や予算を増やさず仕事だけを増やすことによって職員は多忙になり、結果、患者との会話の時間が減少し、医療事故の増大につながっている。

また、医師の悪口を言う医師が増えているのも気がかりである。国民医療費という一つのパイの奪い合いで、疲れきっている医師同士が愚痴を言うのではなく、もっと医師もロータリークラブ、ライオンズクラブ、老人会などいろいろな会合で医療の現状を説明するべきである。特に抽象的な言葉の羅列でなく、数値で示し、現状の医療の報道問題も国民に理解してもらうことが重要である。

私の所属している岐阜県医師会は患者さんの視点に立って将来の医療制度を考える組織であるため、今後とも、日本の医療について活動を続けていきたいと考えている。

医療法人社団慈明会澤田病院

学会ご案内

●第16回 日本急性血液浄化学会学術集会

日時：平成17年9月16日（金）～17日（土）
会長：鈴木 忠（女医大・救命救急C）
会場：東京ドームホテル（東京都）
問合せ：〒162-8666
東京都新宿区河田町 8-1
東京女子医科大学 救命救急C
TEL 03-3353-8111 FAX 03-5269-7335

●第27回 日本小児腎不全学会学術集会

日時：平成17年9月29日（木）～30日（金）
大会長：服部元史（東京女子医科大学・腎C）
会場：湯本富士屋ホテル（神奈川県）
問合せ：〒162-8666
東京都新宿区河田町 8-1
東京女子医科大学 腎C 腎臓小児科
TEL 03-3353-8111(39112) FAX 03-3356-0293

●第35回 日本腎臓学会西部学術大会

日時：平成17年9月30日（金）～10月1日（土）
大会長：田口 尚（長崎大学）
会場：長崎ブリックホール（長崎市）
問合せ：〒852-8523
長崎市坂本 1-12-4
長崎大学 病態病理学分野（第二病理）
TEL 095-849-7053 FAX 095-849-7056

●第35回 日本腎臓学会東部学術大会

日時：平成17年10月7日（金）～8日（土）
大会長：清水不二雄（新潟大学・大学院・医歯）
会場：朱鷺メッセ（新潟市）
問合せ：〒951-8510
新潟市旭町通一番町 757
新潟大学・大学院・医歯 附属腎研究施設分子病態学分野
TEL 025-223-6161 FAX 025-227-0770

学会ご案内

●第41回 日本移植学会

日 時：平成17年10月28日（金）～30日（日）
 会 長：高橋公太（新潟大学・大学院・医歯）
 会 場：朱鷺メッセ（新潟市）
 問合せ：〒951-8514
 新潟市学校町通二番町 5274
 新潟大学大学院医歯 機能再建医学講座
 TEL 025-227-2284 FAX 025-227-2284

●第8回 日本腎不全看護学会学術集会

日 時：平成17年11月12日（土）～13日（日）
 大会長：田村幸子（金沢医科大学）
 会 場：金沢市文化ホール（金沢市）
 問合せ：〒231-0013
 神奈川県横浜市中区住吉町1-4 第3白井ビル5-A
 日本腎不全看護学会
 TEL 045-226-3091 FAX 045-226-3092

●第25回 日本アフェシス学会学術大会

日 時：平成17年11月18日（金）～19日（土）
 大会長：天野 泉（天理よろづ相談所病院）
 会 場：なら100年会館（奈良市）
 問合せ：〒632-8552
 奈良県天理市三島町 200
 天理よろづ相談所病院 腎透析科・血液浄化センター
 TEL 0743-63-7851

●第43回 日本人工臓器学会

日 時：平成17年12月1日（木）～2日（金）
 大会長：峰島三千男（東京女子医科大学）
 会 場：日本都市センター会館（東京都）
 問合せ：〒162-8666
 東京都新宿区河田町 8-1
 東京女子医科大学 臨床工学科
 TEL 03-3353-8111

学会ご案内

●第11回 HDF研究会

日時：平成17年12月2日（金）～3日（土）

大会長：峰島三千男（東京女子医科大学）

会場：日本都市センター会館（東京都）

問合せ：〒162-8666

東京都新宿区河田町8-1

東京女子医科大学 臨床工学科

TEL 03-3353-8111